

令和元年度第1回神戸市歯科口腔保健推進検討会 議事要旨

1. 日時 令和元年7月10日（水）19時から

2. 場所 三宮研修センター5階 505会議室

3. 出席者（50音順）

足立会長、岩本委員、岩崎委員、片野委員、薩摩委員、杉村委員、高橋委員、高見委員、宅見氏（山口委員代理）、田口委員、竹信委員、坪田委員、中谷委員、中塚委員、西尾委員、宮本委員、百瀬委員、安井委員（三代委員、山本委員 欠席）

4. 議事次第

議題

- (1) 「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第2次）」の取り組み状況について
- (2) オーラルフレイル対策事業について
- (3) 歯科口腔保健推進関連会議スケジュール（予定）について

報告

- (1) 市民の健康と暮らしに関する調査について
- (2) 口腔がん検診について
- (3) 訪問口腔ケアについて
- (4) その他、情報交換等

5. 議事

(1) 「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第2次）」の取り組み状況について

事務局：資料2の平成30年度（第1回～3回）神戸市歯科口腔保健推進検討会、平成30年度（第1, 2回）神戸市歯科口腔保健推進懇話会議事について説明。

「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第2次）」の取り組み状況について説明。

会長：障害者診療対応歯科医院に関して、利用者に向けて紹介みたいなことは進んでいるか。

委員：こうべ市歯科センターでは地域で診療可能な方は積極的に紹介を行っている。また、114医療機関を対象にした研修会を大阪大学の秋山準教授にお願いして実施している。

委員：長田区ではなかなか健診に来てもらえない。ベトナムの方とか言葉の壁もある。

事務局：赤ちゃんの健診では問診票等多言語化の対応しているが、歯科での情報はこの場では不明なので確認のうえ、検討する。

委員：一昨年、兵庫区の3歳児健診のむし歯が多く、健診時にいろいろ工夫して取り組んで長田区を抜き返している。

委員：こども食堂への協力という形で食後の歯ブラシ等考えたが、現場はもっと切実に「食べ物」を求めている状況だった。

事務局：何かの機会で、先生方のご協力を得て「歯・口の中は大事」な事を伝えていきたい。福祉とも相談して検討したい。

(2) オーラルフレイル対策事業について

事務局：昨年度は、啓発事業と研修事業の2本立て。

今年度については、オーラルフレイルチェック事業機器を使って検査を実施。231名のデータでは、問題なしが2割、オーラルフレイルが7割、口腔機能低下が1割だった。その集積したデータを、フレイルチェックデータと突合して分析する。

来年度以降、地域の歯科医院でオーラルフレイルチェックを受けることができる体制を考えている。

委員：薬局でのフレイルチェックで咀嚼機能を調べた結果と、その後コメントを出したり歯科医院の受診勧奨とかは行っているか。

事務局：口腔機能低下のチェック項目は、①「口の渇きが気になる」②「むせるか」③「半年前に比べて硬いものが食べにくい」。このうち2項目にひっかかった分を口腔機能低下を自覚している分とした場合13.6%だった。結果については個別にお渡しし、アドバイスも記載する。

委員：北区では11月9日「北区健康講座」有馬ホールにて竹信先生に基調講演をお願いしている。

委員：東灘では神戸薬科大学地域連携サテライトセンターにおいて、月1回区民に向けて公開講座を実施している。東灘歯科医師会では4月27日に2時間かけて、森井先生がオーラルフレイルについてお話し、その後、80名にオーラルフレイルチェックを施行し、個別相談も受けた。

委員：歯科衛生士会主催の2月24日(日)の「健康公開講座」で、講師に飯島先生をお招きし、市民の方200名近く来場。その後に、28名のオーラルフレイルチェックをしたと追加報告した。

委員：11月17日県の看護協会の「看護フェア」での歯科衛生士会のブースでもオーラルフレイルチェックを入れさせていただいたおかげで、たくさんの方々が並ばれるという状況だった。自分が低下していくところを気づくというのがオーラルフレイルチェックを意味あるものにすると思う。

委員：当日、日本歯科衛生士会の口腔機能管理や摂食嚥下の認定歯科衛生士の担当

が出席し、現場はスムーズに動いた。口の中の機能ということに特化した指導というの、歯科衛生士会としても大変効果的であったと思う。研修会のほうも進めていきながら、きっちりとしたその後の指導ができるよう継続する。

会 長：こういった場に来られる方は、健康を確認しに来るといような方が非常に多く、実際に自分がこれからフレイルになっていくということを想像できない人が多い、本当はそこから先のことを確認していただかないといけない。

委 員：兵庫区では、今年は歯科医師会が担当、10月19日(土)「区民健康のつどい」のタイトルを「フレイル」という提案したが、「フレイル」という言葉が正確に「虚弱」という形、あるいは「フレイル予防ってどういうことか」というのを答えられる人は少ないと思う。健康自慢の人だけが集まって、フレイルを理解して集まってこないということが非常に歯がゆい。行政として、「フレイル」という言葉自体を市民に認知していただけるための対策、あるいは、ポスターとかは、もっと市民権を得る言葉となるような努力、対策は。

事務局：「フレイル」については、30年3月、広報紙KOB Eに「フレイル」の特集の記事を掲載。そのときの反響は、まだ老年医学会で「フレイル」という言葉が認められて数年後ということもあって、余り知られてないということがあった。アンケート結果では、ご高齢の方は、フレイルの記事は大変ありがたいので、もっと啓発してほしい。40歳代とか結構若い方からも、親のためにも今の自分にももう既に当てはまる項目があるということで、早く言っていただいたほうがありがたいと好評だった。

機能低下をチェックするため、30年10月から、フレイルの状態にある方を、「フレイル改善デイサービス」につなぐ事業を開始した。兵庫県歯科衛生士会の協力を得て、お口の中の健康とオーラルフレイルのことを講義いただいております。参加した方は、運動機能の低下、体操、体力測定にはもちろん興味があるけれど、歯科について聞く機会がないので、この場で講義が聞けたのは非常によかったという感想だった。市民全体の方へは先ほどの広報紙以外に、介護予防のイベント等で、フレイル全体のちらしや説明の資料を用いて、地域包括支援センター、あんしんすこやかセンターの協力も得ながら展開している。

事務局：老年医学会で用いている「フレイル」という言葉を使って、お知らせしていくのが大きな神戸市の姿勢になる。様々な場所で「フレイル」という言葉を使いながら、フレイルとはこういうものと徐々に浸透させているのが現状。

会 長：「フレイル」と聞き「何かちょっと検査してみたほうがいいんじゃないの」

ぐらいに思ってもらえるのでいいと思う。「放置はしないようにしていこう」と広まればいい。実際に生活改善が本当に必要な人のところに届くのにちょっと時間がかかる気がする。

委員：口腔乾燥の値だけが高いというのは、何か原因があるか。

事務局：詳しく調査をしているわけではないので、あくまで想像の域を出ないが、かかりつけの薬局に来られる方という時点で、ある程度疾患を持っておられて、何種類かのお薬を普段から飲まれている可能性が高いのではないか。

委員：ムーカスという機械がどの程度信頼性があるのか。

事務局：機器測定は歯科衛生士会の認定を持った方たちが、事前の昨年度から研修会等使い方の実習もし、操作は統一性を持って実施している。

会長：ムーカスの信憑性は、正規分布が何となくうまくばらけているところを見ると、多少のばらつきがあったとしてもうまく測れていると感じる。測るたびに違うというのは実際に実測した感想は？

委員：計測に関しては、1回だけの測定ではなくて、2～3回測定して、できるだけ平均値をとっている。口腔機能低下症の唾液量の計算にしても、今のところムーカスと、サクソングーゼを噛んで、その唾液の数量を見て測るしか今のところ方法がない。市民は、数字は非常に興味深いので、啓発の一つとしては効果的ではないのではないかと現場で思う。

会長：口腔乾燥は若い人でも結構多く、一つの指標になると思う。薬でなる場合、また、口を余り使わない人が唾液の出が悪いということもあるので、その2つの面から考えていくが、これを評価するのは難しい。

事務局：今後、データを分析していくが、大きく見たときに、オーラルフレイルに該当される方が約70%おり、割と健康で、元気な人で、しっかり食べてそうな人でこの数字。薬局でした場合には10%から20%ぐらいがオーラルフレイルかなあと、この乖離が余りにも多い。これはまた今からの積み重ねで見ていくしかないかと考えている。

会長：薬局での項目は、ガムを噛むということと、もう一つぐらいのことだと思うので、そこではなかなか引っかかってこない人もいる。オーラルフレイルチェックはムーカスという機械を使用する。センサーとしては非常に鋭敏なセンサーだというふうに考えていただける。口腔機能低下症になっていくための予備軍だというふうに考えたら、広くとっておいたほうが、啓発という意味ではいいのではないかと思う。

(3) 歯科口腔保健推進関連会議スケジュール（予定）について

事務局：資料4 令和元年度の分の歯科口腔保健推進関連会議などのスケジュール説明。

今年もオーラルフレイルチェックの啓発イベントをやっていく予定。
本日の議論、また懇話会も踏まえて、9月ぐらいに市会報告をする予定。
オーラルフレイルチェック事業を令和2年度以降に向けて実施していくにあたって検討を重ねる。

6. 報 告

(1) 市民の健康とくらしに関する調査

事務局：資料5「市民の健康とくらしに関する調査」についての報告。

委 員：歯科の診療所の人口10万人単位の数が背景的なものとしてあるかどうかも加味する意味もあると思う。

事務局：人口10万人当たりの歯科診療所の数は、長田区がなぜむし歯が多い地域なのかというのを、ハッピーむし歯予防事業を立ち上げたときに一度調べたことがある。市内で人口割にして一番歯科診療所が多いのは長田区で、少ないのは、西区が人口割にして少なかった。

会 長：数が多いからといって受診者も多いとは限らない。

事務局：人口当たりの歯科の診療所の数が少ないところでは本当に口腔機能が悪いのかというところは、統計学的な検定も可能。

委 員：健康格差ということで、最初に言われた就業状態、収入とかということ自体に関する調査というのもアンケートにあったのか。もしそれがあるのであれば、そういうことと関連づけた分析はできるか。

事務局：かなり答えにくい質問も散りばめており、就業状態、保険者の種類、可処分所得、家族構成等々非常に聞きづらい社会経済的な要因をあえて調査項目にしている。いわゆるみんなが健康に当たり前に与えるであろうと思う要因以外でかつ、我々が介入できそうな項目もデータを拾っており、それは可能。

委 員：健康格差ということに関しては、明らかに歯科のデータは出る。例えば、以前に灘区で、阪急沿いの先生の初診患者の3,000人か4,000人のデータと私も阪神沿いの初診患者のデータを出したことがある。高齢になってくると、阪神沿いの患者さんのほうが、特に男性が残存歯数が減る。究極をいえば、学区レベルのところと比較する方が良いと思う。

一昨年でしたか、口腔衛生学会に、3歳児健診のう蝕のデータを出したけれど、もちろん区別に差がある。神戸市全体で見ると、ほかの全国の自治体でこの10年間に調べたデータに比べると、余り神戸市全体のう蝕の割合は減ってない。東灘区とか垂水区は、もしかしたら減りきったのかもしれないけれど、この10年間で余り減っていないので、これは別に兵庫区や長田区の問題ではなくて、神戸市全体でもちょっと減ってないというのがある。その辺皆

さんで考えていただいたらいいと思う。

会長：確かに経年的なデータを出すと、もう少しわかりやすいのかと思う。

オーラルフレイルで男女差が逆転しているということは、女性のほうが今までデータがよかったのに、オーラルフレイルに関しては、女性のほうが多いというこのリスクに関しては、私の本当にこれも個人的な経験ですけど、口腔乾燥を訴えて来院される方というのは、圧倒的に女性が多いように思う。同じ乾燥があっても、男性は気にならないかもしれないと思う。だから、口腔乾燥と例えばちょっとむせるというのを掛け合わせると、やっぱり圧倒的に女性のほうが多くなるだろうと思った。

いろいろ解析の仕方、考察はあろうかと思うが、非常に興味のあるデータだと思うので、使わせていただきたい。

(2) 口腔がん検診について

委員：資料6平成30年度の口腔がん検診の実施状況と令和元年度の口腔がん検診の実施現況を報告。

昨年度2月23日に、中央市民病院の竹信部長、当時、神戸大学医学部歯科口腔外科の講師をお迎えして、口腔がん検診にかかる研修会を開催した。今年度も、10月にまた研修会をする予定。

検診の実際に関しては、竹信部長のほうから説明。

昨年度は、778人中30名の要精検約3%。今年度は1.5%ぐらい。しかし、実際に口腔がんであったという報告はまだない。

著名な人が口腔がん罹患し世間的な注目を浴びると、多数応募されるが、第一線の我々臨床医がそれを見逃さないということが非常に大事。きちっと後送精検体制がとれるのは必要である。そのための研修会等も我々のスキルを高めるために必要である。後送精検体制やスキル向上に力を入れてやっていきたいと思う。

(3) 訪問口腔ケアについて

資料7訪問口腔ケア事業に関して報告。

申し込みは、圧倒的に歯科医師を通じてとなっている。

訪問口腔ケア推進事業も、あわせて研修事業を2回ほど実施した。今年度は、第1回研修会を8月25日(日)、神戸市市民福祉交流センターにて、日本歯科大学口腔リハビリテーション・多摩クリニック菊谷先生のクリニックに所属する歯科衛生士の有友たかね氏を招聘、開催する予定である。今、神戸市歯科衛生士会及び兵庫県歯科衛生士会のほうに告知、募っているところ。

委員：歯科衛生士会のほうでは、歯科衛生士を登録し、いつでも執務できるように

整えている。区によって多少差があり、できるだけ区ごとで、現場での歯科衛生士と歯科医師会との連携も一つ深めるきっかけにしたい。今後、歯科衛生士の育成も条例に規定されている。専門職の育成という部分で、今、既存で行かれている訪問口腔ケアにまだ行っていない歯科衛生士を同行させて、勉強させていただきたい。

会 長：訪問口腔ケアの実施回数、30年4月から経時的に確かに増えてはきているけど、各区での回数差が非常に大きいようだが、これは何か考察されているか。

委 員：訪問診療からこの訪問口腔ケアにつながるという形が非常に多い。最初からこの訪問口腔ケアというこの事業目的で依頼されてから来られる方もいるが、やはり訪問診療を行って、その後、継続的な口腔機能管理が必要だろうと主治医が判断し、訪問口腔ケアにつなげていくというような形で入っていくパターンが多い。

東灘区は、訪問診療を積極的に実施する歯科医師がおり、その方が神戸市のそういう委員会の委員を担っておられるというようなこともあって、その先生方のご協力で、たくさん出ている。

ほかの少ない区も、訪問診療数自体はたくさんあるんだと思うが、その辺のところ、事業周知の問題であったりとか、手続き上の煩雑さなど、様々なことがあるのかなと、もう少し広げる努力はしたい。

基本的にはこの訪問口腔機能管理というのは、1回始まると、何かのきっかけで入院されるとか、お亡くなりになるとかということがなければ、原則的にずっと継続していくものだから、どんどん増えていく。

会 長：この人数がもう少し増えていくことを期待したい。

委 員：神戸市から補助もあり、訪問口腔ケアというのは非常に重要で、医師会のほうでも非常にやってくれという要望が高い。先ほど歯科衛生士会からもご報告があったように、歯科医師会と歯科衛生士会が、もうちょっと各地区で顔の見える関係を築いて、頼みやすい関係、意思疎通ができる関係を早急に実施していく必要があると思う。

介護保険の認定審査委員の認定審査会に主治医の意見書が出て、その中の「口腔ケアの必要」にチェックされている方が非常に多いが、実際にそれが認定審査で介護度が決定された後、ケアマネのプランニングになると、「口腔ケア」というのが全くあがってこない。要するに、例えば、入浴とか、食事介護とか、そういうので全部介護メニューの点数を使い切っても、歯科の口腔ケアだけは別枠でいけるというのをずっとケアマネさんにも言っているが、どうも身体的な入浴や、食事介護、買い物とか部屋の掃除で使い切ると、

口腔ケアはもう使う点数がないというふうな考えで、入れてもらえてないという事実がある。

これも、行政の方を通じまして、歯科口腔ケアは介護メニューと別枠でちゃんとできるということをもうちょっとケアマネさん等にもアナウンスしていただけると、もっと増えるのではないか。口腔ケアというのは、介護老人の健康維持というか、誤嚥性肺炎も含めて、非常に役立つと周知していただけるようお願いしたい。

事務局：医療・介護連携、多職種連携の部分については、別途医療介護連携の部会、歯科医師会からもご参画いただいている部会でも、その課題は認識している。主治医意見書とは少し違うが、患者様が入院された後、前後の入退院連携シートというのを多職種が参画するその部会で作っている。歯科の情報も含んでおり、それを退院時にケアマネジャーが入手して、そしてケアプランを立てていく。まだ意識啓発も含めた項目というのも歯科以外のところも入れ、退院後の状態像に合わせた利用者の方の適切なケアプランを立てていく。今後、ケアマネジャー対象の研修も予定をしており含めて啓発。

会長：今、委員から本当に核心を突いたようなご意見をいただいたように思う。ケアマネの方に対しての研修事業、実質的な連携が本当にできるようなシステムをつくっていかないといけない。

委員：資料の一番後ろに「訪問歯科診療 口腔ケアのご案内」案を提出した。このような形のリーフレットを各所に配布して啓発に努めたいと思っており、完成後は各所でまた配布していただきたいと思っている。ご協力下さい。ケアプランに関して包括的にプランニングできるような形をとっていただけるとというのが本来の姿。

事務局：神戸市の歯科医師会様のパンフレットにも、「費用のところについて」ということで「ケアプランの利用限度額外です」と紹介させていただいている。今年度、地域包括部会の中で、多職種連携に関し検討していく。

(4) その他、情報交換等

委員：質問1 参考資料の2。検討会の議事要旨1月24日分「一般の教員、校長、養護教員、PTAへの研修、及び子ども達へフッ化物応用のリーフレットを配布し、子どもを通じて、保護者に正しいフッ化物の知識を得ていただくようなことを考えた」に関して、事務局から「配布するリーフレットを策定中である」この進捗状況はいかが？

事務局：フッ化物のポスター、及びちらしの作成にとりかかっている。現在、歯科啓発のポスター及びデザインということで見積もり合わせをし、デザインを決

めようとしているところ。また、版ができれば、会長以下、学校歯科医を含む歯科医師会の方々に確認いただきたい。小学校1年生を対象にして、6歳臼歯とむし歯との関係、フッ化物の有効性も書いた。あわせて「歯を大切に」というふうなポスターの版を今、考えている。できたら学校で掲示してもらえるようにしていきたいと考えている。

委員：質問2保健福祉局の人事に関してである。骨太の方針が6月21日に閣議決定されて、3年にわたり歯科の文言がいろいろ加えられ、非常に充実した内容になってきた。そのほか、未来投資会議であるとか、いろいろなところで歯科に関してのことが明記された。条例が平成28年11月8日にでき、その条例の第7条2項に、「市は、前項の施策を効果的に実施するため、歯科口腔保健を担当する歯科専門人材の確保及び資質の向上に努めなければならない」という記載がある。この4月の保健福祉局の人事を見ていたら、向 前係長が退職後、その職につかれる方がいない。現在、口腔保健支援センターには、常勤歯科衛生士4名、再任用1名であり、次年度には常勤1名がまた定年退職を迎え、常勤衛生士が3名となってしまう。市民への歯科口腔保健を推進するにあたり、本会と神戸市保健福祉局は両輪の輪であるとする。9区の保健福祉部の健診補助あるいはオーラルフレイルの検診補助とかであれば、非常勤の衛生士の方々が十分かもわかりませんが、センター長とともに歯科保健施策を企画立案し、実行していくには、優秀な歯科専門職が必要と思うがいかがでしょうか。

事務局：4月に来たばかりで、異動の件とか体制の件についてコメントするというのは非常におこがましいが、今後も歯科衛生について、保健衛生について力を入れていくということを考えており、そのための体制づくりというものについても、これからも十分検討していきたい。

そこで、特に人事の関係は、ポストの話、人材の確保いろんな要因が重なり、それらを踏まえた上で、トータルとして、特に私どもとしては施策立案、それから、皆さん方と協議したものを具体的な政策に落とし込んでいく、充実強化について前向きに検討していきたいと思う。

委員：新聞報道で、垂水区に新病院ができるということで、3月1日、神戸市長と前保健福祉局の三木局長あてに嘆願書を提出した。口腔外科自体、我々歯科医院にとって2次医療機関として、非常に重要な役割を果たしている。今回、資料2の3ページ、分野別にみた施策の展開で1番から6番まですべて口腔外科がかかわっていく内容である。

垂水区は、約21万人の住民がいるが、垂水区には全く今、口腔外科というの

がない状態であり、非常に患者さんにとってもご迷惑をかけているような状況である。今回、神戸市の都市空間向上計画が発表されるが、進出するその新病院に対して口腔外科をできるだけ誘致条件にさせていただきたい。

事務局：垂水の駅前の市有地を使って中核的な医療機関の整備を行いたいということにつき、この31年度の当初予算に提案をし、議決をいただいた。その選定方法については、小児及び産科と地域医療支援病院が垂水区の医療の充実につながり、ひいては人口減少が続く垂水区のまちづくりにも資するため、まずそれを第一に考えたい。細かい条件は、手続きをこれから進めていくということで、ご要望の部分がこういった形で反映できるのかも含めて、検討させていただきたい。

委員：歯科に関しても、地域支援病院の条件にある紹介・逆紹介に関係していると思っており、よろしく申し上げます。

委員：MY CONDITION KOBEのちらしが入っているが、このアプリは、現在、神戸市民の方はどれぐらい入っておられるか？

事務局：昨日の時点で1,200人強。年齢分布に関しては、40歳代、50歳代、60歳代が約3分の2を占めている。5%ぐらいが70歳代の方で、20歳代、30歳代で15%から20%ぐらい。

目標としては、2万人。今年度末で2万人の目標を掲げており、今年の9月から本格的にいわゆる広報のキャンペーンを打っていくので、ぜひ皆様もダウンロードし、周知に努めてほしい。

閉会（保健所長挨拶）